

0	はじめに	03
1	環境方針	05
2	事業活動の概要	06
3	環境目標·実績·評価	09
	1. 環境目標と実績の推移(全社合計)	09
	2. 全社合計	
	3. 本社·新住工場	1′
	4. 田原本工場	12
	5. 五條工場	13
4	SDGs活動	14
5	環境関連法規への違反、訴訟等の有無	18
6	代表者による全体評価と見直し・指示	19

はじめに

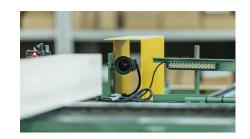
吉銘創業の奈良の地は日本でも歴史ある優良な木材産地の一つで、 1950年の貝本商店創業以来、時代によって移り変わるニーズに合わせて 様々な木材を取り扱いながらその恩恵に感謝し 良質な集成材を供給しながら歩んでまいりました。

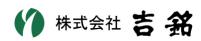
創業時より『鎧をまとわない商売』という経営哲学を大切にして、 信頼をもとにした持続可能な事業を心がけることを あらゆる行動の基礎として活動しています。 また一方で、「木を科学する」をテーマに 最新テクノロジーを持つスタートアップに投資して、 木材の価値ならびに木材を取り巻く環境向上にも目を向けています。

このような流れの中、私たち吉銘は2006年に「エコアクション21」を取得し、環境方針として「大自然に感謝して、少しでも恩返しを」を基本理念に継続して活動を続けており、

近年の世界的SDGsへの取組を背景に、SDGsの理念を尊重し エコアクション21の活動とSDGsをリンクさせながら 全社で活動に取り組み、サスティナブルな社会推進に貢献致します。







当社は2021年度よりSDGsの理念を尊重し、エコアクション21活動とSDGs活動をリンクさせながら具体的に取り組んでまいります。

						SDGs目標					
環境方針 行動指針 事業活動	3 すべての人に 健康と福祉を	4 質の高い 教育を みんなに	6 安全な 水とトイレを 世界中に	7 エネルギーを みんなに そして クリーンに	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と 技術革新の 基盤を つくろう	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な 対策を	14 海の 豊かさを 守ろう	15 緑の 豊かさも 守ろう	17 パートナー シップで 目標を 達成しよう
木を活かす企業				7 14.14-626.001 			12 つくる責任 つかう責任			15 mone hos s of the state of t	
二酸化炭素排出量削減				7 1414-6464C	8 働きがいも 経済成長も			13 無條変動に 具体的な対策を			
廃棄物 排出量削減							12 つくる責任 つかう責任		14 海の豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	
総排水量削減			6 安全な水とトイレ を世界中に								すべての 事業活動 17 パートナーシップで 目標を達成しよう
環境配慮 原材料の 使用							12 つくる責任 つかう責任			15 陸の豊かさも 守ろう	***
環境教育と 全社活動		4 質の高い教育を みんなに									
安全• 作業環境	3 すべての人に 使康と福祉を										
事業創造• 社会貢献						9 産業と技術革斬の 基盤をつくろう					

《環境経営理念》

『大自然に感謝して、少しでも恩返しを』

行動指針

- 1. 大自然から受けた恩恵である木材を人間の知恵をもって 最大限に余すことなく有効に利用し 〈木を活かす企業〉として循環型の住みよい環境の実現を目指します。
- 2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムと環境パフォーマンスを自主的・継続的に改善できるように推進します。
 - 二酸化炭素排出量の削減
 - 廃棄物排出量の削減
 - 総排水量の削減
 - 化学物質の適正使用について維持管理
 - グリーン購入の推進
 - 環境に配慮した原材料の使用を推進
- 3. 環境教育·訓練·社内広報活動の実施により、全ての従業員に環境方針を 周知徹底すると共に、環境保全に関する知識·認識の向上を図ります。
- 4. 環境関連法令と当社が参加した協定等を遵守し、 必要に応じて環境管理レベルの向上を図ります。

この環境方針は、社外にも公開します。

制定日 2005年5月21日 改定日 2011年3月 1日

株式会社 吉銘 貝本 港三

1. 事業所名および代表者名

株式会社 吉銘 代表取締役社長 貝本 隆三

2. 所在地

本社•新住工場

奈良県吉野郡下市町大字新住1118

田原本工場

奈良県磯城郡田原本町大字味間436

五條工場

奈良県五條市島野町485番地

特販部

奈良県橿原市四分町2番地1

札幌支店

北海道札幌市北区新琴似8条2丁目1-11 上島ビル203号

福岡営業所

福岡県福岡市東区多ノ津1-18-15

3. 環境保全関係の責任者 および担当者連絡先

環境経営責任者	代表取締役社長 貝本 隆三
EA管理責任者	神谷 拓信
連絡先	TEL:0747-52-4066
	FAX: 0747-52-4797 E-mail: hinkan@yoshimei.co.jp
	L man-minaneyosiminer.co.jp

4. 事業規模(2021年度)

資本金	7200万円	
年商	〈全社〉	167.25億円
主要製品生産量	〈3工場〉	29,815t • 本社·新住工場:11,593t • 田原本工場:10,274t • 五條工場:7,948t
従業員	〈全社〉	151名(2021年12月現在)
	〈サイト別〉	本社・新住工場:41名田原本工場:31名五條工場:55名その他部署:24名
床面積		 本社・新住:13,600m² 田原本工場:5,811m² 五條工場:8,132m² その他部署:1,220m²

5. 事業内容

集成材の製造販売および住宅関連商品の販売

6. 沿革

昭和25年	4月	貝本商店の創業(創業者 貝本 輝司)
28年	4月	業界に先駆け集成材の製造販売開始(当社 元祖)
40年	4月	吉野銘木製造販売㈱に法人組織化
45年	1月	貝本木材工業(株)を新たに設立(株)吉銘の前身)
50年	6月	(株) 吉銘に社名変更
52年	7月	本社を橿原市に新築移転
	9月	(株)吉銘福山を設立
55年	9月	山陰営業所の開設
58年	8月	福岡営業所の開設
	9月	吉野郡大淀町に佐名伝工場を新設
59年]	10月	岡山営業所の開設
61年	4月	吉野銘木製造販売㈱の集成材工場を製造部門として合併
62年	3月	東京支店の開設
平成 2年	3月	資本金7200万円に増資
5年	9月	全自動別注造作材プレカットライン完成
6年	2月	五條工場新設
	9月	札幌営業所開設
7年	2月	(株)東日本ウッドワークス中部設立
9年	1月	桜井工場新設
12年		ISO9002認証取得
14年	4月	田原本工場新設
15年		貝本木業(上海)有限公司設立
	4月	ISO9001取得
16年1		本社を下市町新住に移転、製造部門と統合
18年		本社(管理本部・新住工場)でエコアクション21の認証を取得
20年		一部認証範囲を拡大(田原本工場および五條工場を追加)
25年		認証範囲を全社に拡大
26年		児玉工場を開設
28年		児玉工場を認証範囲に追加
29年	4月	田原本工場にて木質ペレットの製造・販売を開始



設立当時

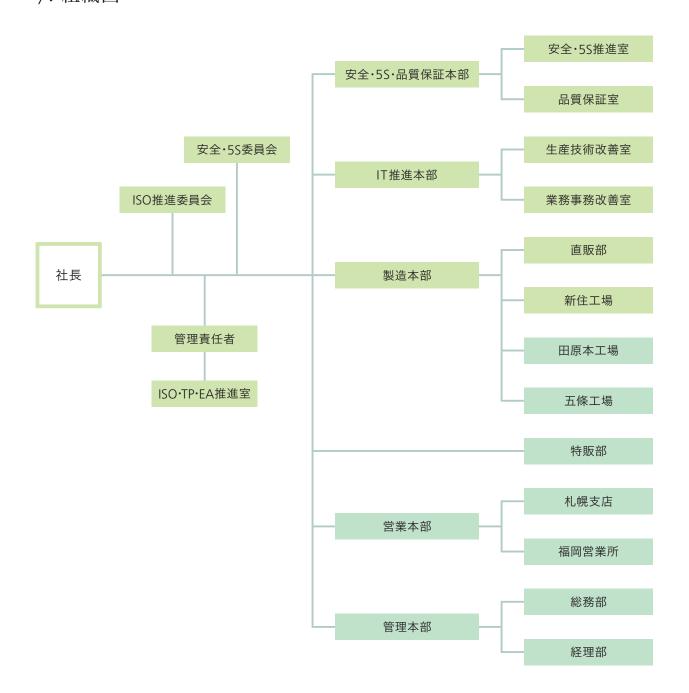


当時最先端の木材乾燥機



本社新住工場

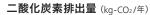
7. 組織図



事業所		所在地			
3-3(67)	直販部	<i></i>			
	新住工場				
	品質保証室				
	ISO·TP·EA 推進室	奈良県吉野郡下市町			
本社	安全·5S 推進室	大字新住1118			
	生産技術 改善室				
	業務事務 改善室				
田原本工	易	奈良県磯城郡 田原本町大字味間436			
五條工場		奈良県五條市 島野町485番地			
	特販部				
畝傍 事務所	総務部	奈良県橿原市四分町 2番地1 3F			
5 55	経理部				
札幌支店		北海道札幌市北区 新琴似8条2丁目1-11 上島ビル 203号			
福岡営業活	听	福岡県福岡市東区 多ノ津1-18-15			

1. 環境目標と実績の推移(全社合計)

目標





廃棄物排出量 (t/年)



総排水量 (m³/年)



化学物質使用量 (t/t)



グリーン購入 (件/年)



環境配慮製品の割合 (%)



2. 全社合計

活動の評価基準: ◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

7
:1) O
7
(1)
0

※二酸化炭素排出量算定の排出係数:購入電力 2011年まで0.378(kg-COz/kWh) 2012年から関西電力0.45(kg-COz/kWh) 東京電力0.464(kg-COz/kWh) 北海道電力0.485(kg-COz/kWh) 九州電力0.525(kg-COz/kWh)を使用する。



全社取組においてすべての項目で生産量あたりで目標達成が出来ました。

3. 本社·新住工場

活動の評価基準:◎総量、生産量あたり共に目標達成 ○総量、生産量あたりどちらかで目標達成 ×総量、生産量あたり共に目標未達

		PLAN	DO	CHECK	ACTION							
邛	目	計画	実行	目標		内訳(単位)		2021年 (52期)	削減率	理由	活動の 評価	改善
	蒾	◆生産性向上による			購入電	カ(kWh)	1,306,747	941,800	27.9%			
二酸	購入電	購入電力の削減を図る ※本社・新住工場では二酸化炭素	▶多品種少量生産に対応すべく	22.6%	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)		588,036	423,811	27.9%		目標達成	■現状活動の維持
化炭	力削減	排出量における購入電力の 割合が高く、購入電力の削減が	切替時間の短縮を図る	22.0%	生産量	(t)	8,746	11,593	-		0	5九八/白到70/胜打
一酸化炭素排出量削減	1194	最も大きな課題である			二酸化	炭素排出量/生産量	67.2	36.6	45.6%			
量	使化	<u>.</u>			二酸化抗	炭素排出量(kg-CO2)	27,849	39,889	-43.2%		目標	
減	使用量削減	►「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める	▶省エネ運転の励行	22.6%	生産量	(t)	8,746	11,593	-	-	未達	▶省エネ運転の励行
	減↑	7			二酸化	炭素排出量/生産量	3.18	3.44	8.1%		×	
						事務所(紙)	0	0	-		目標達成	
	分		 ダンボールは分別し、 古紙再生業者に引取実施 鉄材は再生業者へ持込 廃プラ圧縮し、リサイクル業者に 持ち込む 輸入梱包材の木バレットを 釘のない部分を切断し、再資源化 製造工程で発生する 木材屑(プレナー屑等)は 循環資源として再生利用 			工場(ダンボール)	0	0	-			►ムービングハウス関連の 廃棄物の分別を強化して 廃棄物排出量の削減に 努める
廃棄	別に上	▶廃棄物の分別・再資源化・ダンボール・鉄材☆ ~ ~			廃棄物 (t) -2.9%	工場(鉄)	0	0	-	► 1月よりムービングハウスの 生産活動を開始しました ※事務所の一般廃棄物の排出は 非常に僅かの為算入していません		
廃棄物排出量削減	る再			-2.9%		廃プラ	0	18.9	-6.8%			
出量	資 源化	・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減				工場関連(その他)	17.7	10.5	0.0 /0			
減	分別による再資源化の推進	・機密文書の再資源化			廃棄物計(t)		17.7	18.9	-6.8%			
	進				生産量(t)		8,746	11,593	-			
					廃棄物	量/生産量(t)	0.0020	0.0016	19.4%			
	総		▶ボイラーの燃料の木屑を		総排水量(m³)		2,999	1,138	62.1%		目標達成	▶現状活動の維持
削洞	総排水水	▶ボイラーの給水装置の改善事務所節水の徹底	再利用に回し、 余分な蒸気を発生させない	50.9%	生産量(t)		8,746	11,593	-	-		
	量		ようにする	生産量		生産量あたり使用量(m³/t)		0.098	71.4%			
使	· /v			生産量あたり	総量(t/	年)	8	2	-		目標	
用量	化学物質	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの	►毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	の接着剤の使用量を	生産量	(t/年)	8,746	11,593	-	-	達成	▶現状活動の維持
月 洞	質	接着剤の使用量を維持する	HT CHI	維持する	生産量	あたり使用量(t/t)	0.001	0.0002	78.3%		0	
購入	グリーン	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)		-	5件(以上)	-	-	目標 達成	認証木材購入の 継続に努める現状活動の維持
	環	▶ 化粧ばり造作用集成材の	▶ 化粧ばり造作用集成材の	化粧ばり 造作用集成材	≡ 刃 ≡π ★★ \$	り造作用集成材用の 総量(t/年)	247	37.08	-		目標	
製品	境配慮	原材料において 認証材の使用割合 10%以上	▶ 化粧はり造作用集成材の 原材料発注に際し 認証材の購買を検討する	の原材料に おいて認証材 の使用割合	化粧ばり	り造作用集成材用の 総量(t/年)	805	37.08	-	-	達成	認証木材購入の 継続に努める
				10%以上	認証材使用割合(%)		30.7	100.0%	-			

		PLAN	DO	CHECK	CHECK								
項	i目	計画	実行	目標	内訳(単位)		基準 2016年 (47期)	2021年 (52期)	削減率	理由	活動の 評価	改善	
	B基	▶生産性向上による 購入電力の削減を図る			購入電力	ታ(kWh)	1,157,548	1,159,437	-0.2%				
二酸	購入電力削減	▶電灯の効率利用を図る	▶機械の生産性を上げ、 生産の効率化を図る	5.1%	二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)		520,897	521,747	-0.2%	依々な的 科を使用したころ (目標未達	▶現状活動の維持	
二酸化炭素排出量削減	削減	※田原本工場では二酸化炭素 排出量における購入電力の 割合が高く、購入電力の削減が	▶電灯の節電を実施	3.1 /0	生産量(t)	10,991	10,274	-	ラミナの切削回数が 増加しました。	×	· 전 6 / 기타 크리 스카마트 1 입	
素排出		最も大きな課題である			二酸化质	炭素排出量/生産量	47.4	50.8	-7.2%				
量削	使用量削	▶「エコドライブ」を推進し、 アイドリングストップに努める	▶朝礼等での啓蒙		二酸化质	炭素排出量(kg-CO2)	26,159	24,419	6.6%		目標		
減	宣削減	►省エネ運転を励行する ►電気式フォークリフトの	►フォークリフトに啓蒙表示	5.1%	生産量(t)	10,991	10,274	-	-	達成	▶現状活動の維持	
	沙	採用の検討			二酸化质	炭素排出量/生産量	2.38	2.38	-0.1%				
						木材(プレナー屑)	0	0	-			▶現状活動の維持 ▶廃プラスチックの 再利用先を探す	
廃	分別に	▶廃棄物の分別・再資源化・鉄材・廃プラ事務所関連廃棄物の削減	 ▶ ダンボールは分別し、 古紙再生業者に引取実施 ◆ 鉄材は再生業者へ持込 ▶ 廃プラ圧縮し、リサイクル業者に 持ち込む ▶ 製造工程で発生する 木材屑(プレナー屑等)は 自社内ボイラー燃料として熱回収 及び循環資源として再生利用 		廃棄物 (t)	工場(鉄)	0	0	-	▶ 廃プラスチックが	目標未達		
棄物	よるま					廃プラ	0	51.0	-55.4%	再利田県として販売できない			
廃棄物排出量削減	分別による再資源化の推進			-43.1%		工場関連(その他)	32.8			※事務所の一般廃棄物は			
		学 物//			廃棄物計(t)		32.8	51.0	-55.4%	工場関連(その他)に 合まれています			
	進				生産量(t)	10,991	10,274	-				
					廃棄物量/生産量(t)		0.0030	0.0050	-66.2%				
	総	人工乾燥作業の生産性向上事務所節水の徹底	 ► 蒸気配管バルブの開閉を 夏・冬で見直し実施 ► ボイラーの運転時間を 夏・冬で見直し実施 ► 人工乾燥に使用していた蒸気を ボイラーの給水タンクにもどす 		総排水量(m³)		2,265	2,651	-17.0%		目標		
削減	総排水			-5.0%	生産量(t)		10,991	10,274	-	-	未達	▶現状活動の維持	
	量				生産量あたり使用量(m³/t)		0.206	0.258	-25.2%				
使	1 V			生産量あたり	総量(t/:	年)	249	192	-		目標		
用量	化学物質	▶接着剤の使用量を把握し、 生産量あたりの 接着剤の使用量を維持する	►毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	の接着剤の使用量を	生産量(生産量(t/年)		10,274	-	-	達成	▶現状活動の維持	
減	質	後 信用の使用重を維付する		維持する	生産量は	あたり使用量(t/t)	0.023	0.019	17.5%		0		
購入	グリーン	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)		-	5件(以上)	-	-	目標 達成	▶現状活動の維持	
	環	▶ 化粧ばり造作用集成材の		化粧ばり 造作用集成材	≡双 ≡正 ★★ 幺	リ造作用集成材用の 総量(t/年)	0	0	-			► 2021 左座は	
製境品配慮	境 配	原材料において 認証材の使用割合 10%以上	▶該当製品の製造なし	の原材料において認証材の使用割合	化粧ばり	リ造作用集成材用の 総量(t/年)	0	0	-	-	なし	► 2021年度は 対象製品の生産は ありませんでした	
				10%以上			-	-	-				

		PLAN	DO	CHECK	ACTION									
ij	目	計画	実行	目標	内訳(単位)		基準 2016年 (47期)	2021年 (52期)	削減率	理由	活動の 評価	改善		
	R#				購入電力(kWh)		656,127	753,591	-14.9%			タル产売供の		
<u>一</u>	購入電力削減	▶生産性向上による	►機械の生産性を上げ、 生産の効率化を図る	-10.2%	二酸化炭素排出量(kg-CO		295,257	339,116	-14.9%	▶新規にプレカット加工機を 導入し、生産量の増加により	目標達成	▶各生産設備の 生産性を上げることで 生産量あたりの		
化炭	削減	購入電力の削減を図る	▶電灯の節電を実施	10.2 /0	生産量(t)		5,363	7,948	-	排出量が増加しました。	\circ	二酸化炭素排出量を削減する施策を継続する		
二酸化炭素排出量削減					二酸化炭	炭素排出量/生産量	55.1	42.7	22.5%					
量削	使 化	▶「エコドライブ」を推進し、	40 U Mr		二酸化炭	炭素排出量(kg-CO ₂)	111,276	139,632	-25.5%	▶受注増により、人工乾燥に 使用する灯油の量が増加した	目標	▶ 天然乾燥の期間を確保する ことで木材の水分量を		
減	使用量削減	アイドリングストップに努める ▶省エネ運転を励行する	財礼等での啓蒙フォークリフトに啓蒙表示	-10.2%	生産量(t)	5,363	7,948	-	►田原本工場 (熱源木屑ボイラー)に	達成	少なくして人工乾燥時時間 を短くし灯油の使用量を		
	減"	▶人工乾燥の効率化を図る			二酸化炭	炭素排出量/生産量	20.75	17.57	15.3%	賃乾燥を依頼は継続中	O	削減する施策を継続する		
	分		▶ ダンボールは分別し、			工場(鉄)	0	0	-					
廃棄	別に上		古紙再生業者に引取実施 ▶鉄材は再生業者へ持込		廃棄物 (t)	廃プラ	0	5.46	-7.9%	6 ▶透明な廃プラの資源化は 継続中	目標達成			
物排	6る再	▶廃棄物の分別・再資源化・鉄材・鉄材	▶廃プラ圧縮し、リサイクル業者に 持ち込む	-19.9%		工場関連(その他)	5.06		713 70			▶現状の活動を継続する		
廃棄物排出量削減	分別による再資源化の推進	・廃プラ ▶事務所関連廃棄物の削減	▶製造工程で発生する 木材屑(ブレナー屑等)は 自社内ボイラー燃料として熱回収 及び循環資源として再生利用	1313 /3	廃棄物計(t)		5.06	5.46	-7.9%	※事務所の一般廃棄物の排出は 非常に僅かの為算入していません				
減	推進				生産量(t)		5,363	7,948	-					
					廃棄物量/生産量		0.0009	0.0007	27.2%					
	総	▶人工乾燥作業の生産性向上	水道水使用量を毎月確認する人工乾燥の前に天然乾燥を		総排水量	量(m³)	3,516	2,714	22.8%	▶生産量が増えた分の材料を 乾燥するため 水の使用量が増加しました	目標 達成	►人工乾燥の前に 天然乾燥を十分することで		
肖派	総排状と	▶事務所節水の徹底 ※五條工場ではラミナ(製品を	十分することで ボイラー使用水を削減する	23.9%	生産量(t)	5,363	7,948	-			ボイラーの稼働時間を 削減する ►人工乾燥時の		
	量	構成する板材)を乾燥するための ボイラーに水を使用している。	▶人工乾燥時の木屑焚きボイラーの 蒸気を効率運用する		生産量は	あたり使用量(m³/t)	0.656	0.341	47.9%	小の反用重用相加しよした		木屑焚きボイラーの蒸気を 効率運用する		
僖	化	▶接着剤の使用量を把握し、		生産量あたり	総量(t/年)		総量(t/年)		41.44	49.07	-		目標	
五 量	化学物質	生産量あたりの接着剤の使用量を維持する	►毎月の接着剤の購入量と 在庫を管理	の接着剤の使用量を	生産量(t/年)		5,363	7,948	-	-	達成	▶現状の運用を維持する		
源	技具	2.27.0 1 20.02 20.27.7 0		維持する	生産量は	らたり使用量(t/t)	0.008	0.006	20.1%		0			
類フ	グリーン	▶環境配慮製品購入の推進	▶資材および物品購入時に 環境配慮製品の購入を検討する	5件	件数(件/年)		-	5件(以上)	-	-	目標 達成	▶現状活動の維持		
	環	▶ 化粧ばり造作用集成材の	て ■ 該业制口の制件が	化粧ばり 造作用集成材)造作用集成材用の 総量(t/年)	0	0	-			▶ 2021年度は 対象製品の生産は ありませんでした		
装品	製境品配慮	原材料において 認証材の使用割合 10%以上		の原材料に おいて認証材 の使用割合		送作用集成材用の 総量(t/年)	0	0	-	-	なし			
				10%以上	%以上認証材使用割合(%)		-	-	-					

4 SDGs活動

SDGsの活動内容 当社は下記の活動を通してSDGsに取り組んでいます。

環境方針 〈行動指針〉	SDGs目標	活動内容
	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	ペレットを製造販売して、 化石燃料の使用量削減に貢献します。
木を活かす企業	12 つくる責任 つかう責任	木材の効率的な利用とスマートモデューロで 木材の特性を活かし自然と調和した生活を提案します。
	15 陸の豊かさも 中方う	集成材の製造の際に、短材などの手間のかかる材を 積極的に利用して、森林資源減少に努めています。
	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	生産性を向上させて、単位当たりの電力使用量を削減することでエネルギー効率の改善に寄与します。
二酸化炭素 排出量削減	8 権きがいも 経済成長も	従業員参加のTP活動により、生産技術を磨き 生産性向上に寄与します。
	13 気候変動に 具体的な対策を	CO2排出量を削減することで、 気候変動の緩和に努めます。
	12 つくる責任 つかう責任	生産に係る化学物質や廃棄物の管理を実現し、排出量を削減しています。
廃棄物削減	14 海の豊かさを 守ろう	ペット、プラ類の分類・リサイクルすることで 海洋汚染防止を防ぎます。
	15 ko garata	ペーパーレス化と製品の歩留り向上により 森林資源の減少に寄与します。

環境方針 〈行動指針〉	SDGs目標	活動内容
総排水量削減	6 安全な水とトイレを世界中に	発生させた蒸気を回収して、 水の使用量削減に貢献します。
環境に配慮した	12 つくる責任 つかう責任	国産材の利用を推進することで国の政策を支援しています。
原材料の使用	15 ^{陸の豊かさも}	合法木材を利用することで、 持続可能な森林経営ならびに木材の循環に 貢献しています。
環境教育	4 質の高い教育を みんなに	環境教育はもとより、ISO活動、TP活動においても 個々のスキル向上、多能工化や部署成長の取組を通じて 社員教育を実践しています。

事業活動	SDGs目標	活動内容		
安全•作業環境	3 fべての人に 健康と福祉を	従業員の安全、健康を実現するために、 作業環境の改善に努めています。		
事業創造• 社会貢献	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	国内外のスタートアップ企業に投資し 最先端テクノロジーを自社の経営に活かしたり、 技術革新の基盤構築に向け積極的に対応しています。		
すべての 事業活動	17 パートナーシップで 目標を達成しよう	国内外のサプライヤーと協調しながら 事業を行っています。		

木を活かす企業

木材の有効活用



材長が











1枚1枚

手作業で









欠点除去

FJ加工

国産材は傾斜地で生育していることが多く、規格外の丸太も山から出 材されます。集成材製造においてはフィンガージョイント(FJ)による材料 を長さ方向に接合する工程があります。当社は規格材の欠点を除去し てジョイントするだけでなく、定尺に満たない材を積極的に購買して、限り ある木材資源をより余すことなく使用し、高付加価値な資材として供給し ています。

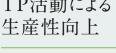
二酸化炭素排出量削減

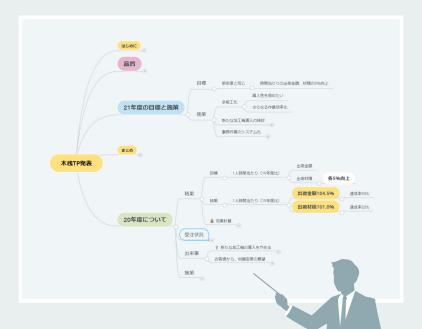
TP活動による 生產性向上











当社では、毎年TP活動発表会を行って おります。

各部署が改善事例を発表し共有するこ とで、全社員が生産性向上についての 意識を高め、業務改善・効率化など積極 的に活動し、生産量当たりの二酸化炭 素排出量削減に取り組んでいます。

2021年度はまだコロナ禍ということも有り、 Web会議形式で発表会を開催しました。

動

木を活かす企業

廃棄物削減

ペレット製造による バイオマス燃料の提供







集成材を製造する際にひき板を 切削した木屑が大量に発生しま す。これまでは、木屑ボイラーで 蒸気を発生させて、人工乾燥 の熱源と冬季の工場内の暖房 に利用していました。

2017年にペレット造粒機を導 入して、工場内で発生した木屑 を社内で利用するだけでなく、バ イオマス燃料として社会に広く提 供しています。





木を活かす企業

スマートモデューロ生産による 高機能木質空間の提供



スマートモデューロは木造軸組で構成された自由度抜群の新たな住宅 です。高気密・高断熱・遮音性・耐震性・耐久性と無駄を省いたエコロ ジーの両方を実現しています。

吉銘はこれからの新たなライフスタイルを応援します。







内装材を木質材料で仕上げています。まるで森にいるような温かさを感じる 癒しの空間を提供しています。

社会貢献

事業創造とサスティナビリティ経営





当社は資金調達においてもSDGsを意識し、滋賀銀行よりサスティナビリティ・リンク・ローンによる資金調達を致しました。今後もサスティナビリティ経営による企業価値向上に努めて参ります。

スタートアップ企業への投資



当社は国内外のスタートアップ 企業に投資し、最先端テクノロ ジーを自社の経営に活かした り、技術革新の基盤構築に向 け積極的に対応しています。

詳しくは弊社ホームページを参照ください。

https://www.yoshimei.co.jp/



青少年育成支援



2015年より奈良県のドッジボール大会への協賛を通して、毎年「吉銘カップ」という大会を開催し、青少年の健全育成を応援しています。

2021年度はコロナ禍のため、残念ながら開催は見送られました。



環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する環境関連法規と遵守状況は次の通りです

環境関連法	主要な設備等	遵守状況		
		本社·新住工場	田原本工場	五條工場
大気汚染防止法	ボイラー	0	0	0
騒音規制法	木材加工機 コンプレッサー	0	0	0
振動規制法	コンプレッサー	0	0	0
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	0	0	0
消防法	木材加工品 木屑	0	0	0
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質	0	0	0
フロン排出抑制法	業務用エアコン	0	0	0
自動車NOx+PM法	トラック	0	-	-

△:申請中 -:非該当 ×:未遵守

○:遵守



全事業所において過去3年間、関係当局より違反の指摘および訴訟等はありません。

当社は緑豊かな地で創業して以来木材に携わり、 大自然の恩恵を受けて成長してまいりました。 行動指針の通り、大自然から受けた恩恵である木材を 人間の知恵をもって最大限に余すことなく有効に利用することを 常に心掛けて活動しています。

今期の取組につきましては、

二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量をはじめとする全ての活動は 生産量あたりにおいて全社目標を達成しました。

来期も環境目標を達成するよう、引き続き現体制にて活動致します。

これからも従業員一人一人の環境への意識向上はもとより、 生産性向上による資源の省力化・エネルギーの効率利用を目指しながら、 持続可能な社会実現に貢献できるよう 引き続き企業活動に邁進して参ります。

> 2022年1月31日 代表取締役社長

财产

